

# 平和の大切さを伝えるために

8月6日、広島市原爆死没者慰霊式並びに平和記念式が広島市の平和記念公園で行われ、本市から市内公立中学校および義務教育学校の生徒代表16人を含む20人の平和使節団が参列しました。原爆が投下された午前8時15分に黙とうをささげると共に、平和への願いを込めて折った千羽鶴(約1万5千羽)を「原爆の子の像」へと献納してきました。

☎総務課(☎826・1111 内線2200)



■森 浩孝さん(土浦市地区長連合会)

74年前の朝。一発の原子爆弾が広島上空で炸裂。老若男女を問わず、熱線・爆風・放射線が襲い、ヒロシマは一瞬にして廃墟と化します。当時35万人の広島市居住の方が、年末までに14万人も亡くなられました。式典での広島県知事の挨拶に「なぜ、74年経っても癒えることのない傷を残す核兵器を特別に保有し、かつ事あらば使用するぞと他を脅すことが許される国があるのか」という言葉がありました。「ヒロシマ」から世界に「恒久平和」を発信し続ける意義であると共感します。



■古市みどりさん(土浦市女性団体連絡協議会)

平和使節団の一員として訪れた、平和記念公園、原爆ドーム、資料館、本川小学校は、すべて原子爆弾の恐ろしさで人間の愚かさを感じさせる辛く、悲しいものでした。しかし、人間の強さと素晴らしさも知る事ができました。小雨の中、平和祈念式典のために、地元自治体をはじめ多くのボランティアが心を込めて対応する姿に胸が熱くなりました。広島の特異な日と優しさを感じられた貴重な体験でした。



■山田一真さん(土浦青年会議所)

昭和20年8月6日、広島の上空に投下されたリトルボーイが一瞬にして建物や人を消し悲慘な風景に変えてしまった。あれから74年後の令和元年8月6日、平和記念式典へ土浦市使節団の一員として参列させていただきました。印象に残った事は今尚2434柱の遺族を探している事です。悲しい事ばかりではなく戦後復興した広島街を観て74年前に広島で起きた事や平和祈念式使節団で学んだ事を後世に伝えさせていただきます。



■清水さやかさん(土浦六中 教諭)

今回、平和使節団として広島平和記念式典へ参加し、改めて戦争の悲惨さや原爆の恐ろしさを感じるとともに、平和の重みやありがたさを痛感しました。被爆者のいない時代を迎えつつある今、教職員の一員として、子どもたちには日本の歴史と歩み、そして戦争で何が起ころ何が変わったのかを「知ること」の大切さを伝えていきたいと強く感じました。子どもたちが生きる未来が、どうか平和で明るいものでありますように。



■飯島拓実さん(土浦一中)

僕は広島平和記念式典に参加して改めて戦争や核兵器は存在してはならないと確信しました。平和記念資料館も見学しましたが、被爆者達の服の跡を見てこれ以上悲慘なものはないと感じました。これから世界で起ころえる紛争を皆で止めたいと思います。



■田澤咲月さん(土浦一中)

今回広島に行った際に感じたことは、自分は戦争や原爆に対する関心はあっても、知識量は思ったより少ないということでした。そういった生徒は自分以外にも何人もいると思うので、色々な場面で今回学んだ具体的な戦争や原爆の恐ろしさを伝えていきたいです。



■川島孝明さん(土浦二中)

広島で最も印象に残っていることは、原爆ドームを直接自分の目で見たことです。今までテレビや教科書で何度も見ましたが、それらよりも迫力がありました。大きい建物を今のような姿にしてしまわう戦争のない日が、一日でも長く続くことを願っています。



■平出麻友花さん(土浦二中)

広島街を初めて見た私は、原子爆弾の恐ろしさを身にしみて感じました。人間が作った原子爆弾が罪のない同じ人間の命を一瞬にうばえると思うと本当にこわかったです。でも人間は同じ人間を救うこともできるので、私は平和が続くようたくさん人を救いたいです。

■前田賢吾さん(土浦二中)



私は、先日広島を訪れ、核兵器の恐ろしさを改めて学びました。今から74年前に原爆が投下され、一瞬にして多くの尊い命が奪われました。原爆の記憶が風化しそうな現代の中で、この貴重な体験から感じた平和の大切さを周囲の人たちにも伝えていきたいです。

■鈴木琴子さん(土浦三中)



私が広島に行った中で一番印象に残ったのは広島平和記念資料館です。資料館には原爆により見るに堪えない大けがを負った人々の写真や絵などがあり原爆や戦争の辛さや恐ろしさが伝わってきました。世界から戦争や核兵器がなくなるといいと思います。

■利根歩武さん(土浦四中)



時間をかけて築いた町が原爆によって一瞬で消え去った74年前のあの日。その跡地を自分の目で見て、他の人や次の世代に繋げていくことが今の私たちにできることだと思います。私は、令和という新時代が平和という当たり前のことが続くように強く祈ります。

■高橋はづきさん(土浦四中)



広島平和使節団に参加して、改めて戦争の悲惨さを痛感しました。資料館での苦しむ人々の写真や遺品を見て、戦争が生み出すのは苦しみ、悲しみのみだと思いました。世界中の人が互いに認め合い、一刻も早く世界から戦争がなくなるといいです。

■酒井善大さん(土浦五中)



ぼくは、今回の土浦市平和使節団の体験を通して原爆の恐ろしさと戦争の悲惨さをより深く感じました。原爆ドーム、記念資料館、慰霊碑と訪れるたび、戦争の酷さ、命の尊さ、原爆被害の凄惨さが感じ取れました。追悼式にも参加し、戦争のない世界を願いました。

■小出石碧帆さん(土浦五中)



平和使節団として参加し、私は原爆による被害や平和の大切さを実感しました。爆風・放射線・熱線による被害を写真や建物から痛いほど感じました。核兵器が人にどれほどの被害を及ぼすのかを今、私達は平和を守るために考えなければいけないと思います。

■木村友哉さん(土浦六中)



戦時中の生活や原子爆弾が投下されたときの様子は、今の生活とはかけ離れたものでした。原爆ドームや資料館では、原爆の恐ろしさを実感し当時の悲惨さを痛感しました。世界平和を実現するためにも原爆のことをたくさんの人々に伝えることが大切だと考えました。

■持田 鞠さん(土浦六中)



私は今回参加して、初めて生の原爆ドームや本川小学校を見ました。それは、私たちに強く戦争の残酷さや悲慘を訴えているようで、言葉が出ません。実際に見たからこそ伝えられることがあると思うので、多くの人に伝えていきたいです。

■三輪蒼良さん(都和中)



僕が広島についてまず思ったのは原爆が落ちたと思えないほどとてもきれいな街なみだなということでした。ですが、資料館にあった絵や写真などを見て改めて原爆の悲惨さを知りました。僕はそうして知ったことをたくさんの人に教えてあげたいと思います。

■市川恵美さん(都和中)



戦争についてはテレビや教科書で見聞きしたことがないため、あまり想像が付きませんでした。今回、平和記念式典に参加し資料館の見学をして、戦争がどれだけ恐ろしく、悲惨なものかを実感しました。そして、感じたことを多くの人に伝えたいと思いました。

■郡司 翼さん(新治学園)



終戦からこの夏で74年。原爆の話は聞いた事はあるものの漠然としか認識していませんでした。今回、平和記念式典に参加して被爆した人達が悲惨な状況であった事を改めて知りました。今の僕達が平和な日々を送っている事の大切さを痛感しました。

■小松崎心菜さん(新治学園)



私は広島へ行って、戦争のつらさ、苦しみを目で見て感じる事ができました。ポロポロになった服や黒い影、手紙などの一つ一つが戦争の悲しみを訴えているように思えました。私はこの経験をずっと忘れず、みんなに伝えたいです。

(原文のまま)